

1. 評価報告概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	1970800809
法人名	医療法人 正寿会
事業所名	グループホームだんらん
所在地	〒 409-3812 山梨県中央市乙黒247-1 電話番号 055-273-7331

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	山梨県甲府市北新1丁目2-12号		
訪問調査日	平成20年12月19日	評価確定日	平成21年1月26日

【情報提供票より】平成20年11月20日 事業所記入

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年4月1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9	人
職員数	8人	常勤	7人	非常勤 1人 常勤換算 7.4人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り			
	1	階建ての	0	～ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	0 円	
敷 金	<input type="checkbox"/> 有() <input checked="" type="checkbox"/> 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	<input checked="" type="checkbox"/> 有(30,000) <input type="checkbox"/> 無	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無	
食材料費	朝食	0 円	昼食	0 円
	夕食	0 円	おやつ	0 円
	または1日当たり 1380 円			

(4) 利用者の概要 明治33年1月0日 現在

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	4 名		
要介護3	4 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.6 歳	最低	79 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	笛吹中央病院、市立甲府病院、甲府城南病院、玉穂歯科クリニック
---------	--------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】作成日 平成20年12月22日

甲府市郊外の田園地帯が広がる自然の中、広々とした敷地に、華やかな外観の3階建の施設がある。敷地内に老人保健施設、居宅介護支援事業所が併設されており、必要時には連携をとっている。グループホームは平屋づくりで、老健施設に接して建てられていて、行き来が出来る。玄関を入るとワンフロアの居間・食堂があり、利用者はゲームを楽しんでいた。季節感を取り入れたレイアウトや、工夫された手作りのカレンダーが、一段と明るく感じさせる。周りに人家が無いので、'地域の中のホーム'を作るのは課題が多く、職員は懸命に努力を重ねている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) ☆地域との交流の機会を増やそうと、ふれあい運動会、老人会等へ参加するなど努力した☆運営推進会議への家族の参加と、運営推進会議の活発化は開催時間の変更など試みたが、難しく改善には至っていない☆同業者との交流は市内、近隣に対象施設が無く実現していない。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) ① 管理者、介護支援専門員、サブリーダーで作成し、全職員が確認し意見を取り入れ自己評価を作成した。今年度、管理者とサブリーダーが併設施設より異動、介護支援専門員は新規採用の状況ながらより質の高いサービスを目指して厳しく自己評価している。全職員の意見を取り入れる工夫を期待したい。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 地域住民の代表(自治会長)、家族全員、市職員、包括支援センター、職員の構成で、2か月に1度開催している。議題としては防災について、感染症研修会の報告や外部評価結果の報告、また、利用者の日常の様子などを報告している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族の面会は多く、利用者の日頃の様子や身体状況を説明し、苦情・意見などはその折に職員に話し、職員が対応している。意見箱の設置、行政の相談窓口があることも伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 自治会にも加入し、地域との交流の場に積極的に参加している。近くには工場や市の運動施設がある程度で、地域といえる住宅地が無いという環境の中で'日常生活における地域との連携'は難しい課題となっている。しかし、地域ボランティアの受け入れや、中学生の福祉体験学習の受け入れなど、出来る限りの努力をしている。

2. 調査報告書

事業所名：グループホームだんらん

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人全体としての理念「やすらぎ」と、グループホーム独自の理念を作って掲示してある。利用者の人格の尊重、身体状況の変化・異常への対応と健康管理、そして、地域との交流などを方針とした理念が作り上げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	異動や新規の職員には、必ず理念を伝え、理解してもらっている。月1回の職員カンファレンスでも確認しており、ヒヤリハット時の反省の際も、理念に立ち返り全体を見ることなど話し合い、実践が理念にもとずいたものとなるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近くに住宅地は無い状況ながら、自治会には加入しており、地域の行事も積極的に参加している。ふれあい運動会、地域の敬老会や地元ボランティアの受け入れ、中学生の福祉学習の受け入れなど、地元との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、介護支援専門員、サブリーダーで自己評価を作成し、全職員が確認して、平素していること、話し合っていること、希望などを反映したものにした。評価結果は、カンファレンスの場で話し合い、改善に向け努力している。	○	運営者、管理者、職員は評価の意義を理解しており、自己評価は厳しい振り返りの眼で評価しており前向きさを感じさせる。一連の過程を職員全員で取り組むことや、評価結果や改善シートを作成し改善の進め方を確認できるような工夫を期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1度開催している。平日の午後の開催のためか、家族の参加が少ない。他の構成メンバーの出席率は良いが、サービスの実際・外部評価への取り組み状況などの報告が主となっており、意見・要望などがなく、双方向的にはなっていないため苦慮している。	○	事業所としては、運営推進会議の設定時間の変更も検討したのだが、他のメンバーとの調整がつかないとのこと。家族会を別に立ち上げ、家族会代表者が運営推進会議に参加する方法もあり、家族同士が意見をだせるよう、働きかけることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所、地域包括支援センターに管理者が出向き、相談・情報の共有に努めている。利用者の権利擁護の問題なども密に連携をとりあっており、地域包括支援センターから照会をうけることもある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	2か月に1度、グループホームだよりを送付している。家族の面会は定期的であり、面会時には日常生活のようすや、健康状態は報告している。金銭の収支報告は、その都度動きがあったときにしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の要望は、面会時にサブリーダーや職員が対応しており、気軽に言えるような関係作りは出来ている。それ以外にも行政の窓口、事業所外部にも苦情、要望を寄せる場があることを伝えており、意見箱の設置もしてある。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の人事異動は1年に1度あるが、グループホーム職員が対象にならないこともある。異動の影響は運営者も理解しているが、やむをえない場合は利用者へ説明をていねいにして、ダメージを少なくするよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の内部研修は月に1度あり、1～2名が交代で参加している。また外部研修の情報も提供し、参加を促している。研修内容は職員カンファレンス時に伝達し全職員で共有し、日々のサービスの実践の中でも、リーダーが教育的な配慮をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	開設当時は他のグループホームへ見学に出向いたが、現在は交流はない。グループホーム協会に加入しており、認知症実践者研修での実習生の受け入れなどを通じて、情報を得ることがある程度で、積極的な交流には至っていない。	○	市内の地域密着型施設とのネットワークづくりという点では、施設数が問題となり、具体的に進んでいない。近隣の市町村までエリアを広げて、事業者同士の交流を図るなど、積極的な活動を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、時間を決めての利用から始め、場に溶け込めるよう工夫しながら、利用に移行している。過去に2人、退院先から直に利用開始というやむをえない場合があったが、利用者が馴染めるよう声掛けや、他の利用者との橋渡しをするなど、きめ細かい配慮をした。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	たてまえではなく人生の先輩として生活の知恵、文化を教えてもらっており、特に行事食や郷土食は、さまざまなテクニックを伝授してもらっている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を使用して、ひとり一人の思いや意向はサービス計画書に記入している。日常生活の中から把握に努め、利用者同士の会話、利用者と家族の会話の中から‘どう暮らしたいか’が見えてくることもあるので、注意深く把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者ひとり一人に担当者を決めてあり、担当者は日常の状況を毎日記録し、それを参考にケアマネジャー、家族、本人、関係者と話し合いプランを作成している。日頃から本人の思いや家族の意見を把握して、計画を作成するよう留意している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1度のケアカンファレンスの際、職員全体で話し合い、3か月に1度アセスメントを行っている。状態の変化は日々の介護記録(センター方式)によりすぐに分かるので、家族とも話し合い、現状に即した計画にしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ふるさと訪問、美容院、お見舞い等の外出支援や通院の介助など柔軟に対応している。通院介助は原則として家族が対応するが、要望があれば支援している。受診後の身体状況、服薬などの報告や連絡は、ケアマネかサブリーダーが必ず受けている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望するかかりつけ医との関係を大事にしている。受診時は現況を家族に伝え、より適切な治療への支援をしている。定期受診が不確実な場合もあり、主治医との関係作りの重要性を家族に伝え、もっと関わりを持ってもらうよう努力している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人、家族が看取りを希望している場合もある。すでに寝たきりの利用者にも対応しており、本人、家族、緩和ケアを専門とする医師、全職員のチームの連携体制は出来ている。日々、身体状況の変化に対応するため申し送り、話し合いの大事さを実感している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の年代の通念として‘年長者を重んじる’感覚が、今のそれとは格差があることを肝に銘じて職員は声掛けや、馴れ過ぎた態度のないよう日頃から話し合っている。個人情報の取り扱いも十分に配慮しており、情報データも適正に管理されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「本人の希望の過ごし方を柔軟に考え支援する」「ひとり一人のQOLの向上が第一である」との思いを職員は共有している。担当が本人の希望の把握に努め、本人のペースも気遣っているが、プログラムが平均的でマンネリ化し、個別性ある支援には至っていない。	○	その人らしい生活をするのが基本であることは全職員が理解しており、ひとり一人の希望する過ごし方を支援したいという思いを持っている。その思いの具現化に向けての工夫と努力を期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	平素の食事にメリハリを付けるための工夫として、外食やピクニックに出かけたり、施設内でのバーベキュ、握りずし等、季節を考慮して楽しんでいる。食事の準備、食事、片付けも職員と一緒に利用者也出来ることを楽しく行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に添って、毎日の入浴も可能ではあるが、時間帯は午後になっている。現状は午前入浴の希望は無い。入浴拒否の方もいたが、自宅からご主人に来所をお願いし、一緒に入浴してもらう等、地域密着型ならではの柔軟性に富んだ支援をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	後片付け、野菜の皮むき、干し柿、団子作りなどは、職員はもっぱら指導を受けている。また、裁縫や洗濯物たたみ、掃除など自然に楽しんでいる。漬物づくりや行事食づくりから、ひとり一人が懐かしい昔話に発展し、自分を引き出すような場を作っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	季節や気候に左右はされるが、庭先の散歩、近くのふれあい公園、ピクニック、外食など外出の機会を持つ努力をしている。買い物の希望があれば職員が同行している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は施錠していない。出て行ってしまおう場合もあったが、その時は職員が付いていくようにしていた。施設の間取りも良く、玄関が事務スペースや居間と直結しており、職員の見守りが届くレイアウトがされている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の避難訓練が年2回、昼と夜間を想定して行われている。ホーム独自での訓練の必要は感じている。緊急連絡網は機能しており、台風の折は役立った。推進会議での議題として討議し‘地域消防団の協力依頼’の案も出たが実現していない。	○	利用者に動揺を与えない訓練が難しいとの事だが、ホーム独自での訓練を様々な災害を想定してそれぞれの避難誘導策を決めたり、設備点検など具体的な事も確認するなかで、できれば地域の協力体制を得ながら実施していくことを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の量、栄養バランス、形状など摂取状況が一目で分かるよう記録を個々にしている。情報は全職員が共有し、食欲不振の場合は対応を様々にしている。水分確保は一日に5回摂取されており、ひとり一人の摂取量は職員が把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は明るく、清潔に整備されている。滞在時間の長い居間は洋室と一部が畳で、季節のクリスマスの飾りが程好くなされている。食堂と居間はワンフロアで、利用者はソファでテレビを見たり、食事用テーブルでは年賀状書きなどして、生活感、季節感を感じる工夫がされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室にトイレ、洗面台が付いており、利用者は安心感が持てる。ベッドのみホームで用意し、他の家具は利用者が持ち込んでおり、時代を共に過ごした鏡台があったり、家族の写真、家具がおかれ居心地の良い空間になっている。		